

令和4年度

## 第2回静岡県立藤枝特別支援学校焼津分校学校運営協議会 報告

1 日 時 令和5年2月1日(水) 午後1時30分から午後2時45分まで

2 会 場 本校 相談室

### 3 参加者

#### (1) 学校運営協議会委員

<委員①> ほりお小児科 院長 様

<委員②> 特定非営利活動法人 焼津育成の会野いちご 監事 様

<委員③> 株式会社ストーク 専務取締役 様

<委員④> 本校PTA会長 様(欠席)

#### (2) 本校職員

校長 副校長 部主事 教務課長

### 4 会議次第

(1) 校長挨拶

(2) 協議：学校評価及び次年度の課題

(3) 進路状況：現状報告

### 5 学校運営協議会 協議内容等

#### (1) 学校評価について

- ・学校側から説明(学校評価、保護者評価)
- ・質疑、意見等

#### 【指導、教職員の資質向上について】

<委員①> 「教師のモチベーションを保つ工夫をしているか」

<学 校> 本校は比較的軽度な知的障害のある生徒を対象とした学校である。特別支援学校の教員は中度、重度の障害がある生徒を指導する機会が多いことから、分校に赴任した当初はこれまでとは違う視点や指導方法を求められて戸惑いを感じる。

そのため、専門的な知識と経験のある職員を配置したり、育成したりすることが課題となる。

小集団である特性をいかし、日頃から顔を見て声を掛け合い、生徒の小さな成長や変化を喜び合うようにしている。

<委員①> 「時間と心のゆとりが創造力とモチベーションの原動力となる。それを維持するのが管理職の役割である」

- <委員③> 「教師は守られた環境にあり意識が甘い。職場実習の対応をしていると、生徒を本当に理解しているのかと感じる教師がいる。コミュニケーション力を高めたい。プロフェッショナルらしく、熱意のある教師でいてほしい。教師を志した時の気持ちを思い出して辛いときも頑張ってもらいたい」
- <学 校> 大学での教員養成段階における指導と、採用後の研修の両方を充実させることが必要である。知識と技能を併せ持った指導力があると良い。  
自分はどうしたいのかをはっきりさせて、ガッツと愛情をもって生徒に接するよう指導している。
- <委員③> 「世の中全般的にハラスメントにおびえているが、生徒に社会人の常識は教えてほしい。ハラスメントを気にしすぎると情熱が感じられなくなる。厳しい指導をしても愛情を感じられれば生徒も受け入れられる」

#### 【学校と地域の連携】

- <委員②> 焼津水産高校の学習活動を紹介する資料をもとに、水産高校生が獲ったかつおが地域のスーパーで販売されたり、生徒が養殖した魚を寿司屋へ提供したりして、原材料の調達から製造・加工、物流、販売消費までの流れを体験しているとの説明があった。  
「焼津分校においても地域とつながり合う活動をすること、その活動を発信することが大切」との意見であった。
- <委員③> 「自分が必要とされていると感じられることは様々な場面で大切」

#### 【3年生の進路状況について】

- <学 校> 例年になく、企業就労が少ない。  
その背景には、生徒一人一人の特性や適性を考慮した進路選択、3年後期での進路変更、体調の維持や管理などの理由がある。